

エコロード・キャンペーンについて

2006年10月23日

エコロード・キャンペーン実行委員会

1. キャンペーンの目的

京都議定書の目標達成のためには自動車交通からのCO₂排出量の削減が不可欠となっています。道路行政においては、CO₂削減目標を達成するため、昨年12月に地球温暖化防止のための道路政策会議より報告を受けた「CO₂削減アクションプログラム」（詳細は「参考資料1（P.9～P.15）」を参照）の概要に基づき各種施策を推進しているところですが、従来から実施している道路整備などのハード施策や路上工事の縮減等のソフト施策といった道路管理者としての取り組みだけでなく、エコドライブや高速道路の利用促進など国民と連携した取り組みを実施するため、「エコロード・キャンペーン」を実施します。

京都議定書目標達成計画策定(2005年4月閣議決定)

運輸部門に割り当てられたCO₂排出量の目標値(2010年)は約2億5,000万t

道路政策では、約800万tのCO₂削減を目標

CO₂削減アクションプログラムの推進

国民との連携が必要な施策について

エコロード・キャンペーンの実施

CO₂削減施策への国民の参加促進
(行動喚起に向けた機運醸成と情報発信)

- ・エコドライブの推進
 - ・高速道路の利用促進
 - ・VICS、ETCの普及促進
- 等

(1) 実施主体

主催

エコロード・キャンペーン実行委員会

(国土交通省道路局、各地方整備局、北海道開発局、沖縄総合事務局、東日本高速道路株式会社、中日本高速道路株式会社、西日本高速道路株式会社、首都高速道路株式会社、阪神高速道路株式会社、本州四国連絡高速道路株式会社)

後援

(社)日本自動車工業会、(社)日本自動車販売協会連合会、
(社)全日本トラック協会、(社)日本バス協会
(社)日本自動車連盟、全国地方新聞社連合会

(2) 実施期間

平成18年10月24日 から 平成20年3月(予定) まで

3. キャンペーンの内容

マスメディアを活用した情報発信、道の駅、S A / P A 等での情報発信を通じて地球温暖化防止に関わる社会的機運の醸成を図り、エコドライブや高速道路の利用促進など国民と連携した取り組みを実施します。

さらに、国民と一体となって重点的にCO₂削減の取り組みを実施する「重点地区」（全国14地区：平成18年度）において、公共交通機関の利用促進など国民と連携した施策を促進します。

全国的な取り組み（エコロード・キャンペーン実行委員会）

マスメディアを活用した情報発信、道の駅、S A / P A 等での情報発信
を通じて地球温暖化防止に関わる社会的機運を醸成

キャンペーンの狙い、広報戦略等の共有

情報発信アイテムの共通化・共有化

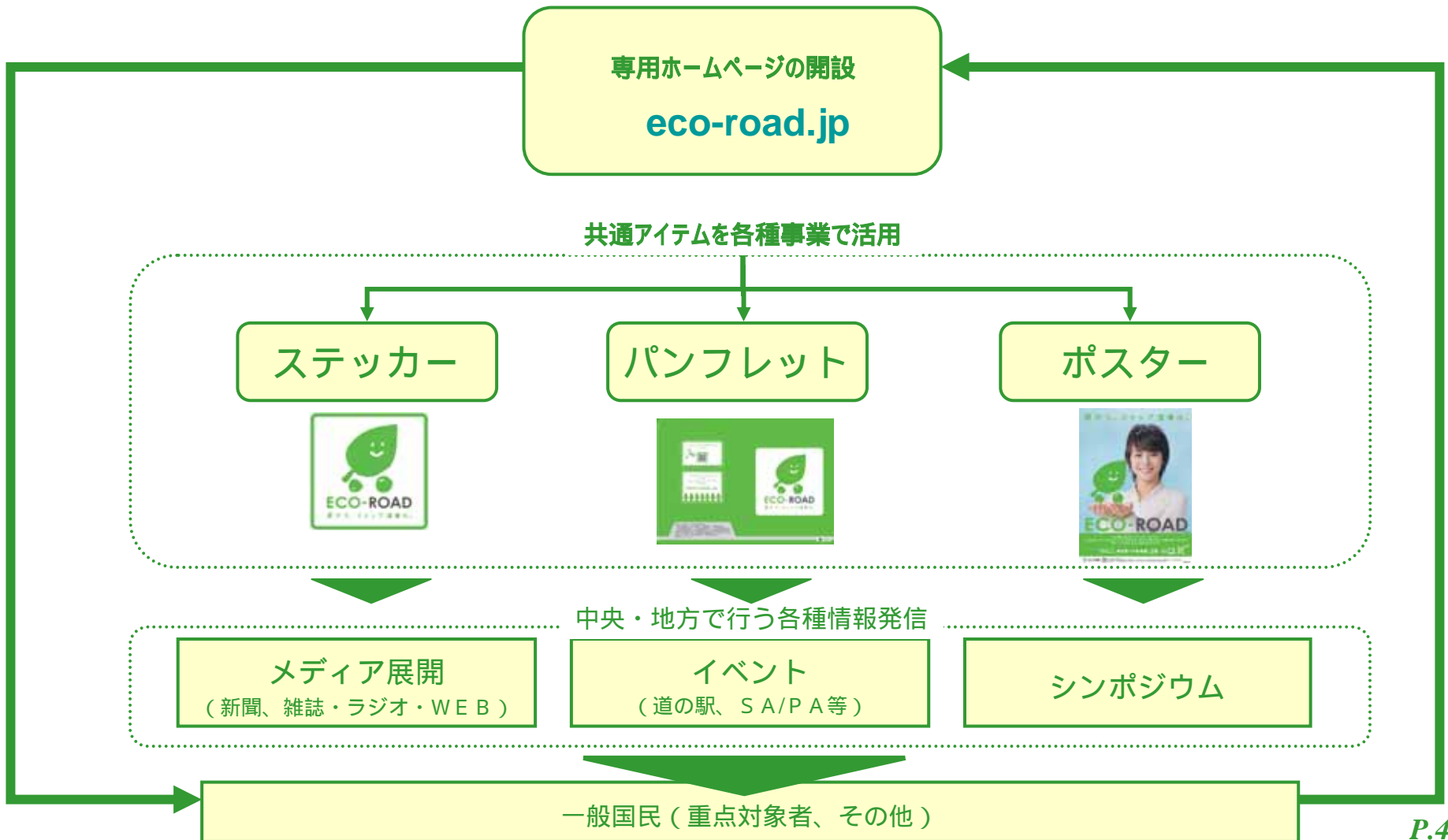
（専用ホームページ、パンフレット、ポスター、
ステッカー等の共有アイテムの活用）

重点地区 における取り組み（自治体、関係団体と連携）

イベント&シンポジウムの開催、パンフレット、ポスター、ステッカー等の配布、
地域メディア、アクセスポイントを活用した具体的な情報発信等

4. 具体的な情報発信の方法

国民に幅広くキャンペーンの取り組みへの参加を呼びかけるため、全国で共通のポスター、パンフレット、ステッカーを活用するとともに、HP、マスメディア、各種イベントによる情報発信を行います。



エコドライブの推進

ふんわりアクセル『eスタート』 加減速の少ない運転
早めのアクセルオフ エアコンの使用を控えめに
アイドリングストップ 暖機運転は適切に 道路交通情報の活用
タイヤの空気圧をこまめにチェック 不要な荷物は積まずに走行
駐車場所に注意

CO2削減に向けた各種取り組みの実施

高速道路の利用促進

一般道路のように交差点のない高速道路は安定した速度でスムーズに走れるので、CO₂の排出は少なくなります。

E T C、V I C Sの普及促進

E T Cを活用することで、料金所での一旦停止がなくなり、料金所付近の渋滞が解消されます。

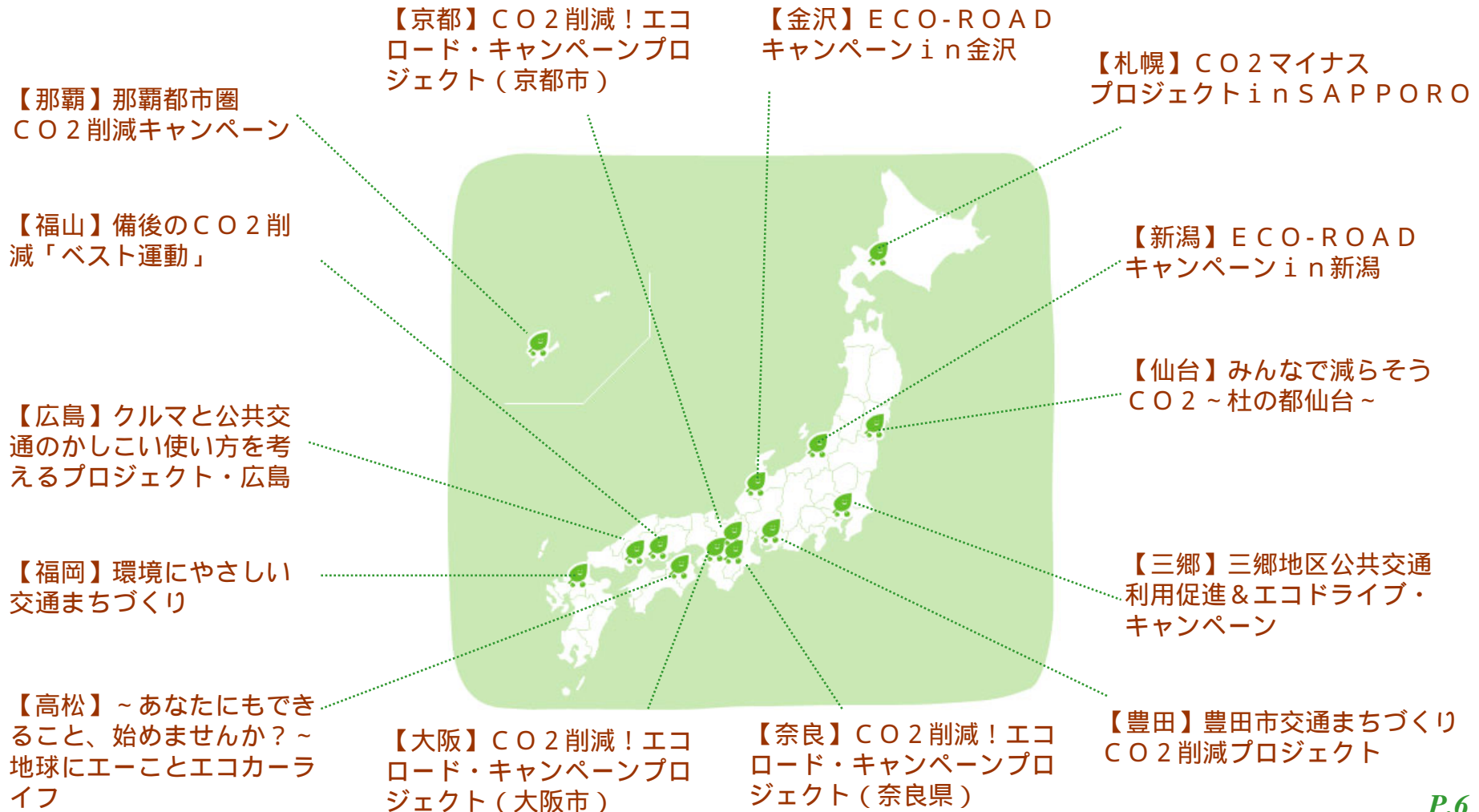
重点地区で取り組む施策の推進

公共交通機関の利用促進などの各種取り組みを実施し、CO₂排出量を削減します。

6. 重点地区の取り組み (詳細は「参考資料2 (P.16 ~ P.30)」を参照)

国土交通省では、渋滞によりCO₂排出量が多く、CO₂削減に向けた取り組みの効果が大きい地域を重点地区(平成18年度現在14地区)に選定しています。

これらの地域において、自治体、関係団体と連携しながらエコドライブの普及、高速道路の利用促進を図るほか、公共交通機関の利用促進などの各種取り組みを実施しています。



7. キャンペーン専用WEBサイトの紹介 (eco-road.jp)

「エコドライブの10のすすめ」、「道路ってエコ」等のコーナーを作り、国民に分かりやすくキャンペーンの取り組みをPRします。また、エコドライブミュージックゲーム等エンターテインメント性のあるコンテンツも加えることで、楽しくエコドライブを理解できるように工夫しています。

1

2

3

4

5

ECO-ROAD
エコドライブキャンペーン

エコロード宣言者数 16200人

エコドライブミュージックゲーム

エコドライブ10のすすめ

道路ってエコ

エコドライブミュージックゲーム

エコドライブ10のすすめ

道路ってエコ

ECO-ROAD パナー

エコドライブミュージックゲーム

エコドライブ10のすすめ

道路ってエコ

ECO-ROAD キャンペーン実行委員会

国土交通省道路局 各地方整備局 北海道開発局 六郷府沖縄総合事務所 東日本高速道路株式会社 中日本高速道路株式会社 西日本高速道路株式会社 首都圏高速道路株式会社 阪神高速道路株式会社 本州四国連絡高速道路株式会社

協賛：社団法人日本自動車連盟 社団法人日本自動車工業会 社団法人日本自動車販売協会連合会

8.パンフレットの紹介

全国の道の駅、SA / PAなどのイベント等でエコロード・キャンペーンのパンフレットを配布します。パンフレットの中では、エコドライブの実践方法やその効果を分かりやすく紹介しています。

品切れ等によりお渡しできないことがありますのでご了承下さい。

道から、ストップ温暖化。


“エコロード・キャンペーン”って何？

地球温暖化の原因となっているCO₂。車から排出されるCO₂が、全体の約2割を占めています。ドライバーひとりひとりの力によって、道からCO₂を少しでも減らしていこうとする運動。それが「エコロード・キャンペーン」です。

ドライバーのみなさんが、運転のしかたや、車について、ほんのすこし気にかけるだけで燃費がよくなり、CO₂の排出が減り、車にも環境にもやさしくなる。そんな「エコドライブ」を、さっそく今日から始めてみませんか？

たまにはエアコンを切ってみよう


エアコンの使用はエンジンに負荷をかけることに、特に真夏の冷やしすぎには注意。天気のいい日は、窓を開けてドライブしてみれば？ 気持ちがいいし、エコにもいいですよ。



ちょよとの気づばりで、みんながうれしい、「エコドライブ10のすすめ」

すこしの時間でもアイドリング・ストップ


車内で人を持ったり、荷物の積み下ろしで短時間停車。ちょよとの間だからと、アイドリングしていませんか？ でもたった5分で65ccを消費してしまいます。アイドリング・ストップを心がけましょう。



このエコドライブで年間およそ、**0.7*** の水を減らすことができます。

ふんわりアクセル「eスタート」でやさしく発進

10回の急発進で170ccの燃料を消費するうえ、エンジンにもダメージを与えてしまいます。やさしいアクセル操作は安全運転にもつながります。発進に余裕を持って、ゆっくりした気分で運転しましょう。




このエコドライブで年間およそ、**1.8*** の水を減らすことができます。

エコドライブの実践方法とその効果について紹介

不要な荷物とドライブしていませんか？


トランクに入っている必要のないモノたち。これらの積みもエコドライブにとっては、まさに“お荷物”。10kgの積（たとえばゴルフバッグ1式）を載せっぱなしで、50km走行すると燃料15ccのムダになります。



このエコドライブで年間およそ、**0.2*** の水を減らすことができます。

タイヤの空気圧で快適ドライブ


右左のタイヤの空気圧、押さったタイヤで50km走行した場合、減った空気圧で50km走行した場合、寿命にも影響してきます。タイヤにも影響してきます。タイヤにも影響して、燃費のいい走り。



このエコドライブで年間およそ、**1.6*** の水を減らすことができます。

おでかけルートは計画的に


道に迷うと時間がかかるし、お出かけのたびに燃料も消費。1分余計に走ると、35ccのムダになります。地図やVICS导航ナビを活用して、スムーズで燃費のいい運転を。



このエコドライブで年間およそ、**0.4*** の水を減らすことができます。

エンジンがかけたらず出発


ガソリン燃費車の燃費は不要です。車検など特別な状況を除いて、走りながらのウォームアップ走行で充分。5分間燃焼すると、180ccの燃料を消費してしまいます。



このエコドライブで年間およそ、**1.7*** の水を減らすことができます。

環状道路が完成すれば、CO₂が減ります。

都市部の渋滞は、おもに「通過するだけ」の車が原因。これは、どこへ行くにも都市の中心部を通過しなければならないことが多いです。そこで環状道路が完成すれば、都市の中心部を通過する車が減り、渋滞が緩和するまでスピードアップが図れて、CO₂排出量を減らすことができます。たとえば、首都圏の環状道路がすべて完成すると、東京23区で3〜4割の渋滞の負荷が軽減するだけのCO₂を削減できるのです。

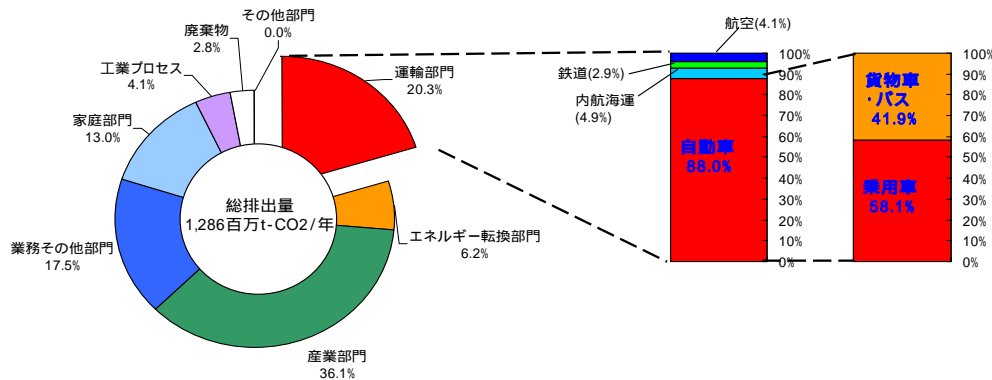


P.8

(参考1)
「CO2削減アクションプログラム」の概要

【日本におけるCO₂排出の現状】

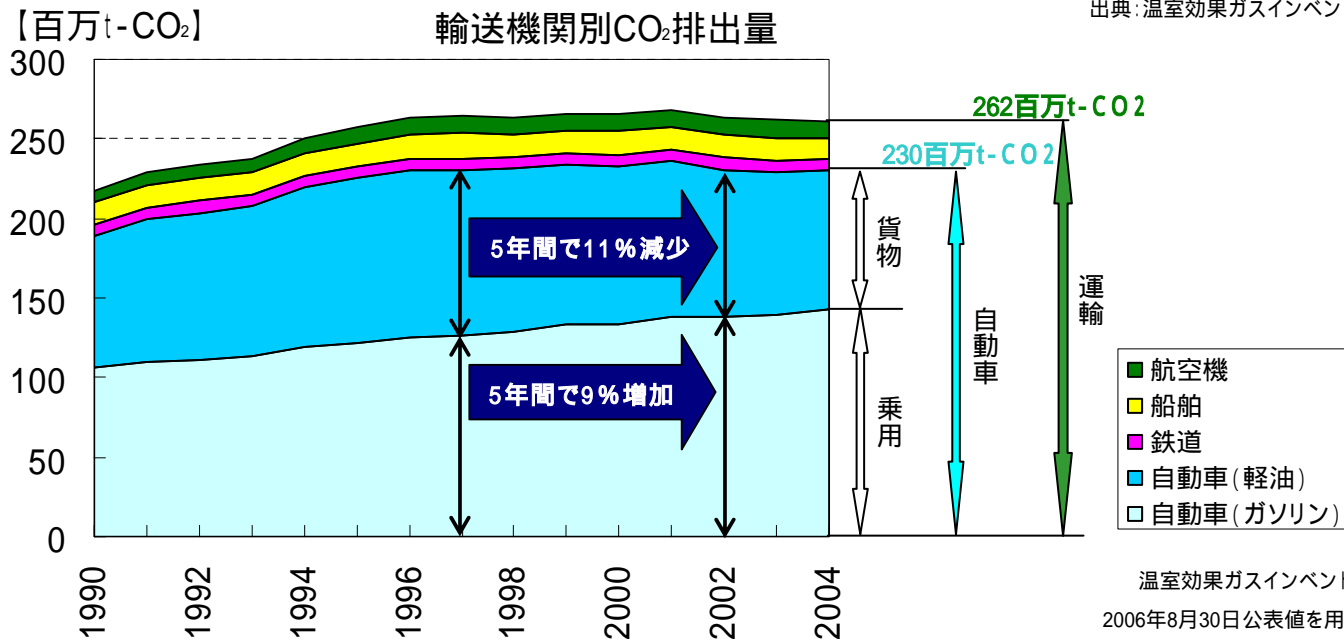
- ・CO₂排出量のうち、運輸部門は21%で、その約9割が自動車
 - ・さらに自動車のうち、乗用車が約6割
 - ・貨物車からは減少(5年で11%減少)
 - ・乗用車からは増加(5年で9%増加)
- 乗用車からのCO₂排出量削減が課題となっています。**



部門別CO₂排出量内訳 (2004年度)

運輸部門CO₂排出量内訳 (2004年度)

出典: 温室効果ガスインベントリオフィス (GIO) 公表値 (2006.8.30) より作成

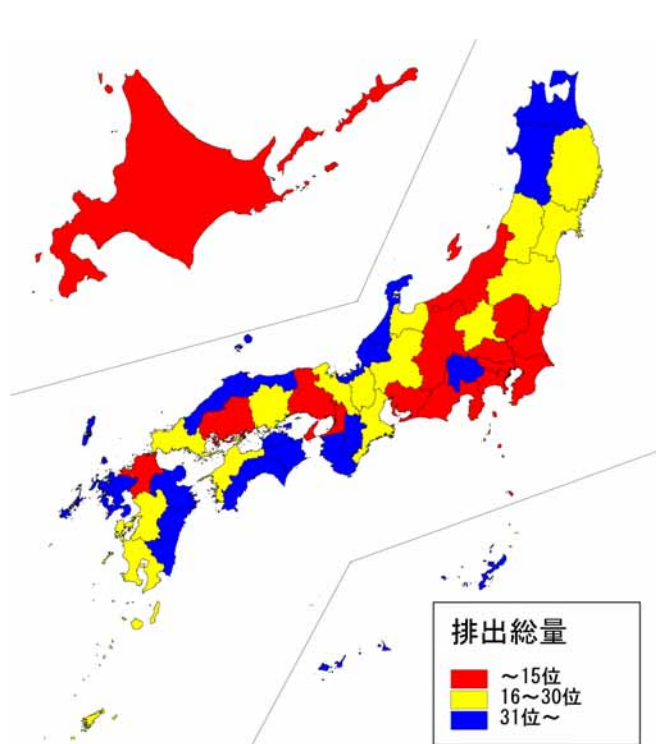


温室効果ガスインベントリオフィス (GIO)、
2006年8月30日公表値を用いて作成

【自動車交通からの地域別CO2排出量】

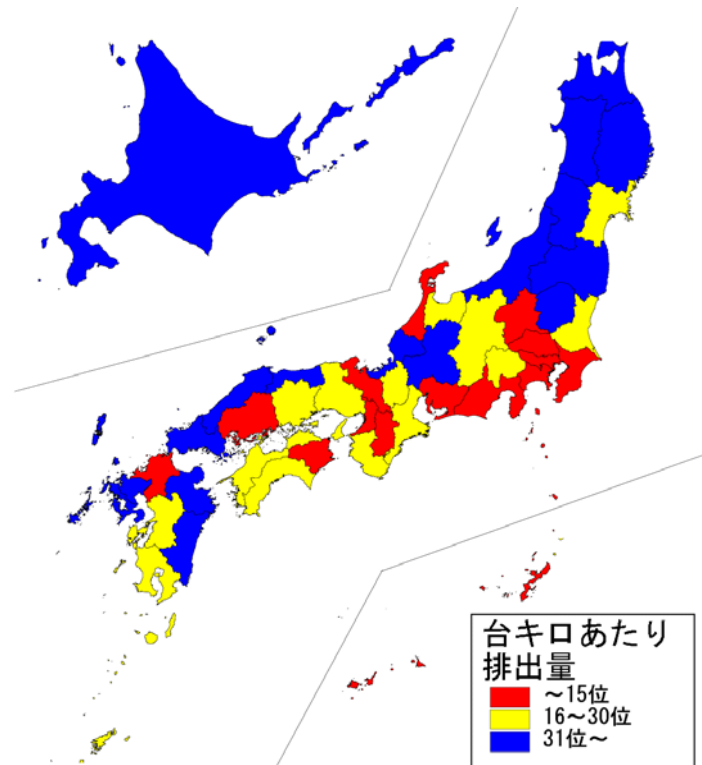
自動車交通から発生するCO2排出量の分布は、交通需要の絶対量が多い大都市圏を中心に排出総量が多く、また、単位走行量（台キロ）あたりの排出量も、渋滞が激しい大都市圏で高い傾向にあります。

このように、特にCO2が多く排出されている地域・区域を重点的にメリハリをつけてCO2排出量削減対策を講じていく必要があります。



(H11年道路交通センサスを元に作成)

CO2排出量の分布



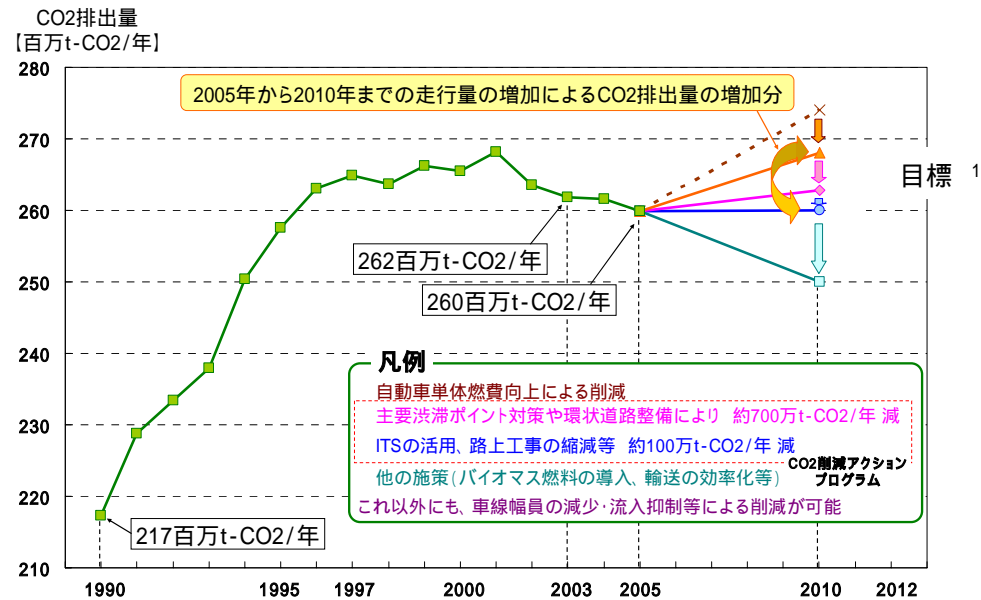
(H11年道路交通センサスを元に作成)

単位走行量(台キロ)あたりCO2排出量の分布

【当面のCO2削減目標】

2010年までに自動車交通需要の拡大とこれに伴う渋滞により、自動車交通全体の走行量(台・km)は全体で約3%増加すると見込まれており、その結果、CO2排出量は約800万t-CO2/年増加すると推定されています。

このような状況の中で、今後、主要渋滞ポイント対策や環状道路整備により約700万t-CO2/年の削減、及びITSの活用促進や路上工事の縮減等により約100万t-CO2/年の削減を図り、今後少なくとも自動車交通からのCO2排出量が増加しないような政策を進めていくことを当面の目標としています。



1 目標: 京都議定書達成計画の目標

2 2005年のCO2排出量は過去5年(2000年~2004年)の値よりトレンドで推計

温室効果ガスインベントリオフィス(GIO)、2006年8月30日公表値を用いて作成

【施策の体系】

当面の目標 800万t - CO₂/年のCO₂排出量の削減に向けて、2012年までの期間に下記に示す施策を実施していきます。

人と車のかかわり方の再考

不要・不急の自動車利用を控える等
個々人の自動車利用パターンの見直し
を促進するため、地域住民等との見直し
の動機づけになるようなコミュニ
ケーションを実施する

1. 市街地の渋滞を減らすため、郊外の地域住民などに、公共交通機関による市街地へのアクセスに関する世帯毎の個別の方法やマップを郵送、訪問等による情報提供を実施。
2. 個々人の自動車利用パターンの適正化によるCO₂削減効果をポスターやTV等で情報提供することで個々人の取り組みを促進。

公共交通の利便性を向上し、自動車
交通から公共交通への転換を図る

1. 交通結節点の改善による交通機関の連携強化、LRT走行空間整備等の公共交通機関支援事業を実施。
2. 自転車走行空間や駐輪場等の自転車利用環境を整備・支援。
3. 公共交通利用によるCO₂削減効果を国民に広く情報提供することで、国民全体の公共交通利用を促進。

アイドリングストップ等のエコドライ
ブを推進し、走行時の燃料の向上を図
る

1. エコドライブの効果等についての啓発活動等エコドライブキャンペーンを実施。
2. 全国の道路事務所において、パトロールカー等における「エコドライブ」の徹底を図る。
 - ・エコドライブ講習会の実施
 - ・パトロールカー等にデジタルタコグラフ等を導入

荷主・物流事業者と一体となって環境
負荷の少ない貨物輸送を推進する

1. 荷主や物流事業者と一体となってCO₂削減に取り組む地方公共団体の支援を実施。
2. 国土交通省の実施する工事については、工事から発生する廃棄物を運搬する際に生じる二酸化炭素の削減を図るため、運搬ルートの設定等に配慮する旨をグリーン購入法に基づく国土交通省の調達方針に規定。

都心部の渋滞解消等CO₂排出抑制効果の高い環状道路等を重点的に整備する

平成20年代半ばまでに首都圏三環状道路について、全体の9割の完成を図る。

CO₂排出量の集中する主要渋滞ポイントの渋滞解消及びボトルネック踏み切りの除去を推進する

全国で約1,800箇所の主要渋滞ポイント及び約540箇所のボトルネック踏切等で対策を実施。

バイパス等の整備とその旧道や周辺的生活道路の車道幅員を減少させる等の措置をパッケージ化して進める

バイパス等が完成した地域において、これまで抜け道となっている道路等で、車道幅員の減少、植樹・歩道整備等の市街地部への通過交通を減らす施策を行い、人と環境に優しい道路づくりを実現する。

自動車交通をCO₂排出量の少ない高速道路へ一般道路からの転換を図る

- 1．多様で弾力的な料金政策
- 2．スマートICの本格実施
- 3．ミッシングリンク（不連続区間）の整備

渋滞の主要な原因の1つである路上工事を縮減する

直轄国道における1kmあたりの年間路上工事時間を平成19年度までに4割縮減する。（平成14年度比）
・共同施工、集中工事の実施
・年末・年度末の工事抑制 等

道路空間の活用・工夫によるCO2削減

道路空間内の緑化を進めCO2の吸収量の増大を図る

1. 街路樹の維持・管理等を適切に行うとともに、今後新たに供用予定の道路においても、積極的に道路緑化を推進。
2. 全国的高速道路及び直轄国道の盛土のり面において、積極的に面的な道路緑化（樹林化）を推進

打ち水効果を高める保水性舗装等の導入を促進する

ヒートアイランド現象が顕著である大都市圏を中心として、一定規模以上で面的に実施する箇所において、散水により路面温度を下げる保水性舗装等の敷設を実施。

道路照明に太陽光・風力等を活用する等、道路空間における新エネルギーの活用を図る

太陽光を活用した道路照明や地熱を活用した融雪施設等、太陽光や地熱等の新エネルギーを活用した施設の整備を全国でモデル的に実施。

自動車交通の運用の効率化

ITS（高度道路交通システム）の活用等により道路交通情報の提供を充実する

1. VICSの一層の普及促進
2. 2007年から一つのITS車載器で多様なサービスを開始するため、規格・仕様を策定。
3. ETC車載器購入の助成等ETCの一層の普及促進。

渋滞の主な原因の一つである違法な路上駐車をなくす

放置駐車違反車両取締り強化による駐車需要の高まりに対応するため、駐車場整備を促進。